

日本共産党 石田 秀三 議員



- 1 生活保護行政について
- 2 三重県事業への市負担について

質問1 今回の生活保護費詐欺事件で逮捕された2人に対して、生活支援課は法外な金額のタクシー料金の不正チェックを出来ず、支払を続けていた。なぜ詐欺行為を止められなかったのか。また今年4月からの見直しで、医療機関の利用制限が行われた。事件の反動で、要保護者に不利なことが起こっていないか。



答弁1 厚生労働省の監査で、支給認定に必要な書類の不備などが指摘された。早急に外部専門家による「第三者委員会」を設置し、原因を徹底究明していく。また、支給基準の見直しは法令に基づき進めている。

質問2 上水道への長良川導水の受水量は日量2,200トンと、当初の13,000トンから大きく減ったが、料金負担は安くなるのか。また、亀山のシャープへの給水工事の増額分は負担増にならないか。

答弁2 料金負担は当初より大きく下がる予定である。また鈴鹿市は、受水する2,200トンに対する料金だけを負担し、それ以外の負担はないと考える。

日本共産党 森川ヤスエ議員



- 1 温かい中学校給食か、冷たい弁当か
- 2 非正規職員の待遇改善について

質問1(1) 中学校給食を検討する際の基本的な考え方はどうか。

答弁1(1) 温かいものは温かく、おいしいものはおいしく食べるということは食生活の上で大事なことである。現在安全でおいしい給食を提供できるよう検討委員会で幅広く検討していただいている。

質問1(2) 中学校給食検討委員会のすすめ方は改



善されたか。幅広い方向での検討のためにも自校調理方式やセンター調理方式の検討の有無などについてはどうか。

答弁1(2) 回数を4回増やし、デリバリー方式だけでなくセンター調理方式や、自校調理方式などの視察も取り入れて幅広く検討をしていただいている。

質問2(1) 消費生活センター職員の正規雇用を行うなど専門的職に見合う処遇を行うべきではないか。

答弁2(1) 広域連合から相談があれば十分協議したい。

質問2(2) 常勤と同一労働の非常勤職員を正規職員化するため、転換試験などの取り入れや、同一労働の場合の賃金の対等化など処遇の改善を。

答弁2(2) 資格、免許など専門性、人材確保の難易度などで7段階あるが、今後、保育士のクラス担任など職責に応じた加算など先進地の調査などをして検討する。

緑風会 彦坂 公之 議員



- 1 職員の時間外勤務について問う
- 2 不当要求・行政対象暴力について問う
- 3 職員の職務中事故について問う

質問1 月100時間を超える時間外勤務が数ヶ月続いている部署がある事は異常である。改善するためには増員しかないのでは。具体的な方策を問う。

答弁1 解消策の具体的な方策としては、年度途中である事から他部からの人事異動は難しく、所属グループや、他グループの業務量を見直し調整する。又臨時職員増により正規職員の負担を減らしたい。来年度以降も業務量を把握し、適正な人員配置をする。

質問2 様変わりしていく不当要求に対して、どの様に対策を講じるか。

答弁2 担当者を孤立させる事なく、組織として適切に処理していきたい。

質問3 議会ごとに専決処分により、自動車事故の報告がある。交通事故発生後の再発防止策の現状とKYT（危険予知トレーニング）活動を導入する考えはないのか。



答弁3 H17年度から、過失の大きな事故を起こした職員を鈴鹿サーキット交通教育センターへ派遣し、研修を受講させている。KYT活動の姿勢は業務を遂行する上で有効であると考えている。今後はより職場内でコミュニケーションを図り、情報共有し事故防止に努めたい。